

「地域ささえ愛あみん」の活動

平成 19 年から始まった居場所づくり活動

平成 22 年 11 月市民活動応援補助金を申請、地元自治会、活動市民団体、行政などに声をかけた「ケアタウン研修会 あったらしいなこんな居場所」を開催。

その後、下府中地区のケアタウン事業拠点指定となったマロニエ {ふらっとマロニエ} スペースにて毎月 2 回の居場所活動を続けています。

中間支援組織について

これまで活動団体としての 3 施設の利用は

女性プラザを 数年前に活動場所として 2~3 度利用。

市民活動サポートセンターは、団体登録しサポセンまつりに参加 という程度でした。

中間支援組織を考えると 大事にしたいと思うのは

○「つなぐ」を考える

さまざまな身の回りにある、世代を超えて 枠を超えて つながる

その役割を 組織である「中間支援組織」に求めたいと思います。

誰でも違和感なく 私たちの活動場所として利用したいと思う開かれたスペース、組織体が目指されるといいなと思います。

○これまでの 3 施設の良さを引き継ぐ

それぞれの特色を持って利用対象者を一定程度意識したものととして運営されてきている 3 施設が、今後一つにまとめられる中で、各々整理されている評価展望を統合して引き継いでいただくことが大切と思います。

他地域の中間支援組織活動事例から (※地域づくり団体全国協議会発行 中間支援組織活動事例集 H22)

- ・お年寄りから子どもまでの参加を考えた活動を企画開催している。
また 一般市民(団体)から、学生、自治会、企業とさまざまな立場の人へ アプローチしている。そのため外からの多様な視点が反映されやすい。
- ・運営サイドはその分研修を積み、実践しながらレベルアップを図っている。
組織体については、各事業ごとに外部に運営委員会をおき、事業担当者と運営委員会が協働体制を作っている。そこに参加したい市民ボランティアを募るやり方。
やらなければ、…でなくやってみたい 人を集める工夫がある。
など 大変だけど楽しく活動している様子が見えました。

小田原での取り組みに期待

これから小田原で新たに運営を担う方たちには、今後各団体の活動をより密に知り つながり拡がりのしかけづくりをしていっていただきたいと思います。

施設設備への要望

- ・フリースペースは多世代の利用を想定、とくに子供連れも可能なコーナー設計をお願いしたい。
- ・視覚障がい者用に便利なチャーム、聴覚障がい者用には掲示案内、車いす利用者用トイレの便座位置など要配慮点については、当事者の確認を希望
- ・有料のスペースについては、持続可能な市民活動応援のためできるだけ低額設定をお願いしたい。
- ・東西に広がる地域特性から、将来展望として、市内 1 か所に固定化せず利用者の利便性を考え 第二のセンター(既存施設の一部活用も考えられる)を構想してはどうか と考えます。